

誰もが安心して暮らせる市を目指して

市は、高齢者に限らず、あらゆる世代に対応した支援体制を構築するため「地域共生型地域包括ケアシステム」の実現を目指しています。このシステムの実現に向けた、現在の取り組み状況を紹介します。

詳しくは、**☎地域包括ケア課(☎22550)**へ。

地域共生型地域包括ケアシステムの必要性

市はこれまで、高齢者が介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、医療や介護、予防、住まい、生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築を進めてきました。

しかし、現在は、高齢化と人口減少の進行により、さまざまな分野の問題が絡み合い複雑化しています。個人や世帯内でも、複数の課題を抱え、支援を必要とする人が多くなっています。そのため、高齢者だけでなく、障害のある人や子ども、生活困窮者などを含む、あらゆる住民の生活に根ざした支援が必要になって

います。

また、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくには、世代や分野を超えて、地域をともにつくっていくことも重要視されています。

このことから、市は、あらゆる世代に対応した体制を構築するため、「地域共生型地域包括ケアシステム」の実現を目指しています。

実現に向けた取り組み

現在の取り組みとして、推進方針の作成や相談支援包括化推進実務者の配置など、複合化・複雑化した課題を抱えた要援護者を受け止める体制づくりに取り組んでいます。また、分野の垣根を越えて、情報の共有や協働するため、関

係機関などとの連携や全庁的な連携体制づくりを進めています。

そのほか、住民同士の支え合い活動を進めるため、「渋川市地域助け合い活動」を実施しています。

高齢化率の推計



出典: 全国=[社人研]日本の将来推計人口(平成29年推計)、群馬県: 渋川市=[社人研]日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)

渋川市地域助け合い活動

市は、地域で支え合う仕組みや住民相互のつながりをつくるため、社会福祉協議会と連携して各地域に「協議体」を設置しています。各協議体では、地域住民などが定期的に集まり、これからの地域について話し合っています。

〈協議体設置地区〉

渋川、金島、古巻、豊秋、伊香保、小野上、子持、赤城、北橋および渋川市全域を対象とする協議体

〈話し合われている課題〉
見守り、ごみ出し、居場所
買い物支援、介護予防、公的サービスの周知など

〈協議体参加者〉

地域住民、各種団体(※)
※主な参加団体 自治会、民生委員児童委員、老人クラブ、ボランティア、福祉専門職、企業、行政、社会福祉協議会、包括支援センター

詳しくは、**☎高齢者安心課(☎22179)**へ。



協議体の活動風景